

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

## アラビア語起源語における文法的性

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部</p> <p>公開日: 2025-03-17</p> <p>キーワード (Ja): スペイン語, 不定性名詞 (género ambiguo), アラビア語起源 (arabismos), 集合名詞／個別名詞, 外来語</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 土井, 裕文</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 関西外国語大学</p>
URL	<p><a href="https://doi.org/10.18956/0002000319">https://doi.org/10.18956/0002000319</a></p>

# アラビア語起源語における文法的性

土 井 裕 文

## 要 旨

現代スペイン語において文法的性が揺れている名詞は、不定性名詞 (género ambiguo) と呼ばれている。その不定性名詞の1つに azúcar がある。azúcar はアラビア語起源であるのだが、azúcar 以外にも、アラビア語起源の単語が目についた。本稿では、アラビア語起源語における文法的性を扱う。

アラビア語の男性名詞／女性名詞の対立は、生物学的性のほか、集合名詞／個別名詞の対立も示すが、スペイン語に入ったアラビア語起源語でもその対立は残している。例えば、aceite 「油」は集合名詞で男性名詞である。一方、aceituna 「オリーブの実」は個別名詞で女性名詞である。

なお、アラビア語では男性名詞であったものが、ハコモノの場合、スペイン語では女性名詞になる。アラビア語で本来女性名詞であった café と sofá は、スペイン語では外来語としての意識が働いて男性名詞となったと考えられる。

キーワード：スペイン語、不定性名詞 (género ambiguo)、アラビア語起源 (arabismos)、  
集合名詞／個別名詞、外来語

## 1. 序

スペイン語の名詞には、性 (género) がある。ラテン語時代に性は3つだったが、現代スペイン語においては2つとなっているので、通時的に変動が見られる場合がある。また、スペイン語と同じラテン語を祖先にもつ言語間でも、性が一致しないことは多々ある。性の変わる有名な例は次の2単語である。<sup>1)</sup>

ラテン語 lac 中性名詞 >

現代スペイン語 leche 女性名詞

現代ポルトガル語 leite 男性名詞

現代フランス語 lait 男性名詞

現代イタリア語 latte 男性名詞

現代ガリシア語 leite 男性名詞<sup>2)</sup>

現代カタルーニャ語 llet 女性名詞

ラテン語 dolor<sup>男</sup> >

中世<sup>男</sup>/<sup>女</sup> >現代スペイン語 dolor<sup>男</sup>

現代ポルトガル語 dor<sup>女</sup>

現代フランス語 douleur<sup>女</sup>

現代イタリア語 dolore<sup>男</sup>

現代ガリシア語 dor<sup>女</sup>

現代カタルーニャ語 dolor<sup>男</sup> (または<sup>女</sup>)

現代スペイン語において性が揺れている名詞は、不定性名詞 (género ambiguo) と呼ばれているが、不定性名詞の1つに azúcar がある。azúcar はアラビア語起源であるのだが、不定性名詞のリストを眺めていると、azúcar 以外にも、アラビア語起源の単語が目についた。本稿では、アラビア語起源語<sup>3)</sup> における文法的性を扱う。特にアラビア語の文法的性がスペイン語に入ってもなお影響を残していると考えられるものに焦点を当てる。

## 2. 不定性名詞に関する先行研究

### 2.1. 上野 (1996)

上野 (1996) では、不定性名詞の性そのものが扱われている。上野 (1996: 380) には「現代の一般的な用法で生きている約50語の不定性名詞について、比較的普及度が高いと思われる9点のスペイン語辞書 (内2点は西英・英西) を参照し、一つ一つその性の表示を確認した。」とある。その語を列挙したものが次である。

acmé, acné, agravante, aguafuerte, alfoz, ánade, anatema, aneurisma, antípoda, apóstrofe, armazón, arte, autoclave, azúcar, azumbre, babel, callicida, canal, casete, cochambre, contraluz, doblez, dote, duermevela, enzima, esperma, fin, herpe(s), hojaldre, interrogante, lente, linde, magneto, mar, maratón, margen, mimbre, monzón, ónice, pelambre, prez, pringue, reúma, tequila, testuz, tilde, tizne, trípode, tortícolis, vislumbre, vodka

上野 (1996: 381-382) 【下線は筆者が付与】

このリストを眺めていると、下線を施したアラビア語起源の4語が目に残った。アラビア語起源と性の間に何らかの対応関係が見られる可能性があるかもしれない。これを出発点として、アラビア語起源と不定性について考察する。

## 2.2. RAE et al. (2009)

RAE et al. (2009) は、*azúcar* の不定性名詞に関して詳しく述べられている。

Las dos variantes de género del sustantivo ambiguo *azúcar* están condicionadas por criterios geográficos. Así, unos hablantes usan las expresiones *azúcar blanco*, *azúcar moreno*, mientras que otros prefieren *azúcar blanca* o *azúcar morena* (*azúcar negra* en ciertos países). RAE et al. (2009:I 97)

【拙訳】 *azúcar* (砂糖) という不定性名詞の性は地理的な条件によって違いが出てくる。よって、話者のなかには、*azúcar blanco* (白砂糖), *azúcar moreno* (黒砂糖) という男性名詞として使う人もいれば、*azúcar blanca* や *azúcar morena* (国によっては *azúcar negra*) のように女性名詞としての使用を好む人もいる。

しかしながら、RAE et al. (2009) では、アラビア語起源との関連は述べられていない。

## 2.3. 新妻 (2022)

新妻 (2022:25) はアラビア語の名詞の性に関して「男性、女性、どちらで扱ってもいい名詞もあります。」と述べている。

رُوح	حَال	طَرِيقٌ	سُوقٌ	خَمْرٌ	مِينَاءٌ
魂	状態	道	市場	酒	港 <sup>4)</sup>

新妻 (2022:25) が例に挙げている単語は、現代スペイン語には入ってきていない。今のところ、アラビア語起源語で、アラビア語において性をどちらで扱ってもよいものは見当たらなかった。

## 3. *alfoz*, *azúcar*, *azumbre*, *monzón* における género

前章の上野 (1996) に現れた4語 (*alfoz*, *azúcar*, *azumbre*, *monzón*) の語義および語源を見てみよう。

## 3.1. 第一義と DRAE による語源

	西和中辞典第2版による第一義	DRAE23版による語源情報
alfoz	男 [複 alfozes] 史 同一の司法権が及ぶ村々・地域.	Del ár. hisp. <i>alháwz</i> , y este del ár. clás. <i>hawz</i> . (p.101)
azúcar	男 (または単数で女) 砂糖; 糖 (類).	Del ár. hisp. <i>assúkkar</i> , este del ár. clás. <i>sukkar</i> , este del gr. <i>σάκχαρι sákchari</i> , este del pelvi <i>šakar</i> , y este del sánscr. <i>śarkarā</i> . (p.256)
azumbre	女 <sup>5)</sup> アスンブレ: 液量の単位; 8分の1 cántara, 2.016リットル.	Del ár. hisp. <i>attúmn</i> , y este del ár. clás. <i>tum[u]n</i> 'octava parte'. (p.258)
monzón	男 モンスーン, 季節風.	Del port. <i>monção</i> o <i>moução</i> , este del ár. <i>mausam</i> , y este del ár. clás. <i>mausim</i> 'temporada', particularmente la propicia para navegar por haber vientos favorables. (p.1492)

## 3.2. CREA における alfoz, azúcar, azumbre, monzón

alfoz	単数形 alfoz の16例も、複数形 alfozes の5例も女性名詞の事例はなし。
azúcar	el azúcar 1641例 la azúcar 14例
azumbre	男性9例 女性4例
monzón	CREA 82例中1例も女性名詞がない

この4語は男性名詞としての使用が圧倒的である。

## 3.3. Diccionario panhispánico de dudas による記述 (下線は筆者が付与)

ここで、Diccionario panhispánico de dudas による記述を見てみよう。

## 3.3.1. alfoz (初版&lt;紙版&gt; p.37)

alfoz は、歴史を辿ると両方の性が使われるが、現代スペイン語では、専ら男性名詞である記述が見られる。

1. '*Antigua división administrativa y judicial del reino de Castilla*'. Aunque en sus orígenes se empleó en ambos géneros, en el español moderno es exclusivamente masculino: «*El célebre monasterio de San Pedro de Eslonza estuvo emplazado en el antiguo alfoz de León*» (Villanueva *Cantabria* [Esp. 2000]).

## 3.3.2. azúcar (初版&lt;紙版&gt; p.80)

どちらの性も使われるが、大多数は男性名詞としての使い方である旨の記載がある。限定形容詞が付いている場合も両方の性が可能であるものの、女性名詞としての使用が圧倒的である

という。興味深い例として、男性の定冠詞 *el* がついているのに、*molida* という女性形の形容詞が付いている例も掲載されている。

1. 'Sustancia cristalizada usada para endulzar'. Es válido su uso en ambos géneros, aunque, si va sin especificativo, es mayoritario su empleo en masculino: «*Mientras revolvíamos el azúcar, Alfonso tomó la palabra*» (Ibargüengoitia *Crímenes* [Méx. 1979]); «*Se trató sin éxito de facilitar la inmigración de colonos [...] para fomentar el cultivo de la azúcar*» (Silvestrini/LSánchez *Puerto Rico* [P. Rico 1987]). Cuando lleva un adjetivo especificativo, este puede ir asimismo en cualquiera de los dos géneros, aunque suele predominar el femenino: «*Les preparaban una exquisita compota acaramelada con azúcar prieta*» (Sarduy *Pájaros* [Cuba 1993]); «*Puedes aromatizar la nata con azúcar avainillado*» (Arguiñano *Recetas* [Esp. 1996]). En plural, lleve o no especificativo, es claramente mayoritario el masculino: «*Ponga el agua a calentar e incorpore ambos azúcares*» (Domingo *Sabor* [Esp. 1992]). También es predominantemente masculino con el sentido de 'hidrato de carbono simple', tanto en singular como en plural.

2. Este sustantivo tiene, además, la particularidad de admitir su uso con la forma *el* del artículo y un adjetivo en forma femenina, a pesar de no comenzar por /a/ tónica: «*Se ponen en una ensaladera las yemas y el azúcar molida*» (Ortega *Recetas* [Esp. 1972]). Se trata de un resto del antiguo uso de la forma *el* del artículo ante sustantivos femeninos que comenzaban por vocal, tanto átona como tónica, algo que era normal en el español medieval (→ el, 2.1).

### 3.3.3. azumbre (初版<紙版> p.80)

azumbre はどちらの性も使われる旨だけがかかれている。DPD では指摘されていないが、vino のときには男性名詞、agua のときには女性名詞というように後続の名詞に性を一致させているように見える。

1. 'Medida de capacidad para líquidos'. Es válido su uso en ambos géneros: «*Con derecho a llevarse gratis [...] un azumbre de vino*» (Torbado *Peregrino* [Esp. 1993]); «*Este licor se fabrica poniendo [...] media libra de almendras de albaricoque en una azumbre de agua*» (Esquivel *Agua* [Méx. 1989]).

### 3.3.4. monzón (初版<紙版> p.444)

両方の性が使われてきたが、今日では専ら男性名詞として使用されるという記述がある。

1. 'Viento que sopla alternativamente en direcciones opuestas, propio especialmente del

*océano Índico*’. Aunque se ha usado en ambos géneros, hoy se emplea casi exclusivamente en masculino: «Los monzones y brisas afectan únicamente las zonas costeras» (Ayllón *Meteorología* [Méx. 1996]).

### 3.4. alfoz, azúcar, azumbre, monzón の語源となるアラビア語の性

目を転じて、これらの4単語のアラビア語での性に注目してみよう。

	古典アラビア語での形 (DRAE23版)	左に相当するアラビア語	Linca Home Page 「アラジン」による訳語
alfoz	ḥawz	حَوْز	【男】 囲い地
azúcar	sukkar	سُكَّر	【男】 砂糖
azumbre	tum[u]n	تُمْن	【分】 八分の一
monzón	mawsim	مَوْسِم	【男】 季節

これら4単語は、元のアラビア語でも男性名詞である。なお、新妻 (2022:312) によると、分数はアラビア語において男性名詞である。

ここまで見た限りでは、アラビア語起源語は基本的に男性名詞である。しかし、実際には、berenjena (ナス) や alcoba (寝室) など、女性名詞である例も見られる。もともとのアラビア語で、男性名詞／女性名詞がどのような働きをしているを次で検証する。

## 4. アラビア語における集合名詞と個別名詞<sup>6)</sup>

### 4.1. 集合名詞と個別名詞

アラビア語文法において、男性名詞／女性名詞の対立は無生物の場合、集合／個別の対立に帰せられる。

新妻 (2022:99)

◦ (筆者注：アラビア語の女性を表す語尾。音価は a) は概念を示す集合名詞から具体的な個別の名詞をつくるときにも用いられます。

لَيْلٌ は「夜」、昼に対する夜の概念を示す集合名詞ですが、これを لَيْلَةٌ とすることによって具体的な一夜、数えられる夜という意味を示すことができます。集合名詞は文法上、男性単数名詞として扱われます。一方、個別名詞は女性単数名詞として扱われ、その複数形には女性規則複数形や不規則複数形が用いられます。

لَيْلٌ 夜：                      لَيْلَةٌ 一夜  
تَفَاحٌ りんご：                تَفَاحَةٌ 1個  
زَيْتُونٌ オリーブ：        زَيْتُونَةٌ 1粒、1本<sup>7)</sup>

最後の「زَيْتُونٌ zaitun(un) オリーブ」が好例である。4.3.1.でも見るように、زَيْت zaitunの男性名詞語尾(un)をa (zaituna) にすると、個別の1粒のオリーブを意味する。これがスペイン語に借用されて、aceitunaとなっている。

#### 4.2. アラビア語における集合名詞として男性名詞

アラビア語における集合名詞として男性名詞になっているものはスペイン語においても男性名詞となっている。

スペイン語	西和中辞典第2版による第一義	DRAE23版による語源情報	左に相当するアラビア語	語根	Alladinによる訳語
aceite	(食用・薬用の) 油	Del ár. hisp. <i>azzáyt</i> , este del ár. clás. <i>azzayt</i> , y este del arameo <i>zaytā</i> .(p.22)	زَيْت	زيت	【男】 油
ajonjolí	ゴマ	Del ár. hisp. <i>ağğulgulín</i> , y este del ár. clás. <i>ğulgulān</i> .(p.79)	جُلْجُلَان		【男】 ゴマ
algodón	綿	Del ár. hisp. <i>alqujún</i> , y este del ár. clás. <i>qujn</i> .(p.102)	قُنْ	قطن	【男】 綿
arroz	イネ	Del ár. hisp. <i>arráwz</i> , este del ár. clás. <i>áruz[z]</i> o aruz[z], este del gr. ὀρυζα ὄρυζα, y este del tamil <i>arici</i> . (actual. 2022) y este del sánscr. <i>uríhi</i> .(p.211)	رَز		【男】 米
azafrán	サフラン	Del ár. hisp. <i>azza'farán</i> , y este del ár. clás. <i>za'farán</i> . (p.254)	رُغْفَرَان		【男】 サフラン <sup>8)</sup>
azúcar	砂糖	Del ár. hisp. <i>assúkkar</i> , este del ár. clás. <i>sukkar</i> , este del gr. σάκχαρι <i>sákchari</i> , este del pelvi <i>šakar</i> , y este del sánscr. <i>šarkarā</i> . (p.256)	سُكَّر	سكر	【男】 砂糖

上に挙げられた単語は、スペイン語のなかで、いわゆる「不可算名詞」として分類されるものである。アラビア語の男性名詞が「集合」を表す場合と合致している。

#### 4.3. アラビア語における個別名詞としての女性名詞

##### 4.3.1. 果実

アラビア語において個別名詞としての女性名詞になっているものは、スペイン語においても女性名詞となっている。

具体的に言うと、果実を表す場合は基本的に女性名詞の語尾 -a を踏襲している。

aceituna	زَيْتُونَةٌ	zaituuna
berenjena	بَادِنْجَانَةٌ	baadinjana
sandía	بَطِيخَةٌ سُنْدِيَّةٌ	battiha sindiia <sup>9)</sup>

aceituna	オリーブ (の実).	Del ár. hisp. <i>azzaytūna</i> , este del ár. clás. <i>zaytūnah</i> , y este del arameo <i>zaytūnā</i> , dim. de <i>zaytā</i> . (p.22)	زَيْتُونَة	زيت	【個】オリーブの木
berenjena	ナス	Del ár. hisp. <i>baḍīngāna</i> , este del ár. clás. <i>bāḍīngānah</i> , y este del persa <i>bātingān</i> . (p.300)	بَابَنْجَانَة		【個】ナス
sandía	スイカ	Del ár. hisp. * <i>sandīyya</i> , y este del ár. clás. <i>sindīyyah</i> 'de Sind', región de Pakistán de la que procede. (p.1968)	السِنْد		【地冠】シンド地方

なお、果実を表しているのに男性名詞となっているケースが存在する。limón「レモンの実」である。NTLLEによると1570年に初めて辞書に登場した。Wehr (2013:887) の辞書には、ليمون の項目で、個別名詞で⚔となる記述がある。個別名詞形が存在するのに、スペイン語には集合名詞の形で入っている。<sup>10)</sup>

limón	レモン	Del ár. hisp. <i>lafyjmún</i> , este del ár. <i>laymūn</i> , este del persa <i>limu</i> , y este del sánscr. <i>nimbū</i> . (p.1341)	لَيْمُون		【集】レモン
-------	-----	--	----------	--	--------

#### 4.3.2. 実から派生した albóndiga も個別名詞

albóndiga「肉団子」のように、実のような形状のものも個別名詞扱いである。

albóndiga	肉だんご	Del ár. hisp. <i>albúnduqa</i> , este del ár. clás. <i>bunduqah</i> , y este del gr. [κάρυον] ποτικόν [káryon] pontikón '[nuez] póntica', por similitud en la forma. (p.87)	بُنْدُقَة		【個】ハシバミの実 <sup>11)</sup>
-----------	------	---	-----------	--	--------------------------

#### 4.3.3. 容器

アラビア語では個別名詞というところから、容器も女性名詞となる。<sup>12)</sup>

jarra	(柄のついた 広口の) 水差し	Del ár. hisp. <i>gárra</i> , y este del ár. clás. <i>garrah</i> . (p.1280)	جَرَّة	جر	【女】壺
redoma	フラスコ	Del ár. hisp. * <i>raqúma</i> , y este del ár. clás. <i>raqúm</i> 'estrecha de vulva'. (p.1872)	رَطْم	رطم	【動名】引き込むこと
taza	カップ	Del ár. hisp. <i>tássa</i> , este del ár. <i>tassah</i> o ár. clás. <i>tast</i> , y este del persa <i>tašt</i> <sup>13)</sup> 'cuenco'. (p.2088)	طَسْت		【男】金盥(かなだらい)

alcoba「寝室」という単語も、大きく見れば「容器」に分類できる。

alcoba <sup>14)</sup>	寝室	Del ár. hisp. <i>alqúbbā</i> , este del ár. clás. <i>qubbah</i> , y este del pelvi <i>gumbad</i> 'cúpula [de un templo del fuego]'. (p.93)	قُبَّة	قب	【女】ドーム
-----------------------	----	--	--------	----	--------

## 5. アラビア語では男性名詞だったが、スペイン語では女性名詞になったもの

### 5.1. ハコモノ化

アラビア語では機能を表していたのが、個別名詞化で建物（いわゆるハコモノ）を指すようになったと考えられるケースがある。

aduana	税関	Del ár. hisp. <i>addiwān</i> , este del ár. clás. <i>diwān</i> , y este del pelvi <i>dēwān</i> 'archivo'. (p.49)	ديوان	دون	【男】官庁
alhóndiga	公設穀物取引所 [市場]; 穀倉.	Del ár. hisp. <i>alfúndaq</i> , este del ár. clás. <i>funduq</i> , este del arameo <i>panduqiūm</i> , y este del gr. <i>πανδοχείον pandochēion</i> 'albergue'. (p.87)	فندق		【男】ホテル
azotea	屋上	Del ár. hisp. * <i>assuṭáya</i> , dim. de <i>sāṭh</i> , y este del ár. clás. <i>sāṭh</i> 'terrazza'. (p.256)	سَطْح	سطح	【男】屋根
mezquita <sup>15)</sup>	メスキータ, モスク, イスラム教寺院	Del ár. hisp. <i>másǧid</i> , y este del ár. clás. <i>masǧid</i> 'lugar de prosternación'. (p.1458)	مَسْجِد	مسجد	【男】(拝跪する場所の意から) 礼拝堂、モスク

### 5.2. 個別名詞化で具体化

アラビア語では形容詞に分類される *ḥsn* 「美しい、良い」を個別名詞化にして、「良いこと、良い行い」という具体性を帯びている例がある。

hazaña	偉業, 手柄, 功績.	Del ár. hisp. <i>ḥasána</i> , y este del ár. clás. <i>ḥasanah</i> 'buena acción', infl. por el ant. <i>fazer</i> 'hacer'. (p.1158)	حَسَن	<sup>16)</sup> حسن	《形》美しい
--------	-------------	--	-------	--------------------	--------

### 5.3. 分数・数字

分数や数字は、スペイン語に入ると女性名詞となっている。ただし、*azumbre* については、男性名詞として使用されるケースがある。本稿では、後続の名詞の性に一致している傾向があることを指摘した。

arroba	アローバ (1) 重さの単位 略@. (2) 体積の単位	Del ár. hisp. <i>arrūb</i> , y este del ár. clás. <i>rub</i> 'cuarta parte'. (p.209)	رُبْع	ربع	【分】四分の一
azumbre	アズンブレ: 液量の単位	Del ár. hisp. <i>attūmn</i> , y este del ár. clás. <i>tum[u]n</i> 'octava parte'. (p.258)	ثُمْن	ثمن	【分】八分の一
cifra	数字	Del b. lat. <i>cifra</i> , este del ár. hisp. <i>šifr</i> , y este del ár. clás. <i>šifr</i> 'vacío'. (p.534)	صِفْر	صفر	【男】ゼロ

## 6. アラビア語では女性名詞だったが、スペイン語では男性名詞になったもの

アラビア語では女性名詞だったのに、スペイン語に入ってくると男性名詞に変化したものがある。次の二つが代表例である。idiomaなどのギリシア語起源語が男性名詞になりやすいのと同様、外来語という意識が働いた結果と言える。なお、興味深いことに、他のロマンス諸語にいったん入ってからスペイン語に入ったという興味深い語源を有している。

café <sup>17)</sup>	コーヒー	Del it. <i>caffè</i> , este del turco <i>kahve</i> , y este del ár. clás. <i>qahwah</i> . (p.378)	قَهْوَة		【女】コーヒー <sup>18)</sup>
sofá <sup>19)</sup>	ソファ	Del fr. <i>sofa</i> , este del persa <i>soffe</i> , y este del ár. clás. <i>ṣuffah</i> . (p.2028)	صَفَّة <sup>20)</sup>	صف	【女】棚

café および sofá はスペイン語で使われ出したのはここ300年ほどであるのに加えて、いったん他のロマンス諸語に借用されてからスペイン語に入ってきたので、いわゆる「外来語＝男性名詞」という意識が働いたのかもしれない。

## 7. 結論

アラビア語の男性名詞／女性名詞の対立は、集合名詞／個別名詞の対立も示すが、スペイン語に入ったアラビア語起源語でもその対立は残している。

アラビア語では男性名詞であったものが、ハコモノの場合、スペイン語では女性名詞になる。本来のアラビア語において女性名詞であった café と sofá は、スペイン語では、外来語としての意識が働いて男性名詞となったと考えられる。

## 付記

本稿は、SELE2023（スペイン語学セミナー2023：2023年8月25日 於：つま恋リゾート 彩の郷カンファレンス C 室）にて発表した内容に対して加筆・修正したものである。

## 注

- 1) 島岡 (1968) において詳しく述べられている。
- 2) 浅香 (2023:1)
 

13世紀から現代において、ガリシア語はカスティーリャ語の汚染 (干渉または圧力) を受けている。21世紀の今日サンティアゴの市場では \**mércate a leite fría* (正 *merca o leite frío*) 「冷えた牛乳を買いなさい」と使用されていた (2010年頃まで)。
- 3) 本稿でいう「アラビア語起源語」は、歴史を遡ると他の言語からの借用であっても、アラビア語からスペイン語に入ってきた語を指す。例えば、*azúcar* は、アラビア語の前には、ギリシア語 *σάκχαρι*、サンスクリット *śarkarā* に遡れるが、本稿では、「アラビア語起源語」としている。
- 4) 筆者によるアルファベット転写
 

*ruuh haal tariiq suuq hamr miinaau*
- 5) 『西和辞典』第2版には 女 とだけ記されている。一方、『現代スペイン語辞典』改訂版では *azumbre* に 男 女 のラベルが付けられている。
- 6) 土井 (2023: 76) に「アラビア語の「メロン、すいか」は最後に -a の音はなく、*بطيخ* (*battīḥ* バッティーフ) であり男性名詞である。」と書いたのだが、土井 (2023) の受理後に、アラビア語では (-un)/a(t) の対立で集団／個別の対立があることを知った。よって、*بطيخ* *battīḥ* ではなく、*بطيخة* *battīḥa* という女性名詞からスペイン語に入ったと考えられる。
- 7) 筆者によるアルファベット転写
 

*layl - layla*  
*tuffah - tuffaha*  
*zaituun - zaituuna*
- 8) 「サフラン」という日本語からは「紫色の六弁花」(『明鏡国語辞典』) を第一にイメージするかもしれないが、Google 画像検索で、*زعفران* を検索窓に入れた場合は、「花柱を乾燥させた香辛料」(『明鏡国語辞典』) のほうが多くヒットする傾向にあった。
- 9) 日本語の現象で言うと、携帯電話>携帯、や、最近、ファミリーレストランなどで普及してきているクレーマ・カタラナ>カタラナなど、主要名詞部分が省略されるパターンである。*sindiia* とだけ言うと「(パキスタンの) シンド地方の」という意味である。
- 10) レモンの木がイベリア半島に入ってきた時代と関係あるのかもしれない。リンゴ *manzana*-*manzano* の対立とは異なり、高松 (2023: 2) にあるように、「レモンの木」の「木」を表す形式が -o ではなく、新しい形態素 -ero と結びつくこととも関連していると考えられる。
- 11) ヘーゼルナッツ
- 12) 1回 (*مرة*) だけ生じた行為をアラブ人は、動名詞に女性語尾 *ة* を付加することによって表現する。(ライト 1869:187)

- 13) ペルシア語では *tašt* تاشت という綴りも用いられるし、アラビア語に近い طشت という綴りも用いられる。
- 14) スペイン語 *alcoba* はフランス語経由で英語に入り *alcove* となっている。
- 15) フランス語の *mosquée* も、大賀他 (1988: *mosquée* の項目) によると「イタリア語 *moschea* (*moscheta* の変形) ← スペイン語 *mezquita* ← アラビア語 *masgid* (*masjid* の方言形) ← *sajada* 礼拝する」だが、*masgid* から *mezquita* までのプロセスが不明である。
- 16) アラブ人名のハサン (حسن) やフサイン (حسين) と関連する。
- 17) NTLLE によると、辞書に一番早く掲載されたのは、1705年である。
- 18) コーヒーの主な品種は3種類であるが、女性名詞の名残からか、いずれも (ロマンス語の観点での) 女性形になっている。
- アラビカ  
ロブスタ  
リベリカ
- 19) NTLLE によると、辞書に一番早く掲載されたのは、1788年である。
- 20) 「整列するもの」というアラビア語に由来しているものと考えられる。
- صنفت           【男】 整列  
صنفت           《他》 並べる

## 和文参考文献

- 浅香武和 (2023) 「ガリシア語におけるカステイリャ語の汚染: 名詞の性のカステラニスム」 SELE2023 (2023年8月23日) 発表ハンドアウト.
- 土井裕文 (2023) 「スペイン語の教科書に現れるアラビア語起源語: 文法用・会話用教科書における分析」 『関西外国語大学研究論集』 117、pp.63-78.
- (2024) 「スペイン語におけるアラビア語起源の定冠詞 *al-* の有無」 『関西外国語大学研究論集 第119号』 pp.33-47.
- Linca Home Page (2023) 「アラビア語検索エンジン アラジン ver.1」 <http://www.linca.info/alladin/> 最終閲覧日2024年10月30日
- 宮城昇・山田善郎編 (1999) 『現代スペイン語辞典』 (改訂版)、白水社. LogoVista 製品.
- 新妻仁一 (2022) 『アラビア語文法ハンドブック』 [増補新版]、白水社.
- 大賀正喜他 (1988) 『ロベール仏和大辞典』 小学館 (物書堂アプリ「辞書 by物書堂」版).
- 島岡 茂 (1968) 「ロマン語における性の転換について」 『ロマンス語研究』 Vol.3、pp.3-11、ロマンス語学会.
- 高垣敏博監修 (2007) 『西和中辞典』 第2版、小学館 (物書堂アプリ「辞書 by物書堂」版).
- 高松英樹 (2023) 「Pimiento はいつから「トウガラシ」を表すようになったのか?」 2023年5月27日東京スペイン語学研究会 (於:東京外国語大学) ハンドアウト.

上野勝広 (1996) 「不定性名詞の記述に関する一考察」『原誠教授退官記念論文集』 pp.377-391、原誠教授退官記念論文集刊行委員会。

Wright, W. (1859) *A Grammar of the Arabic Language* 『アラビア語文典』 上巻 後藤三男訳 ごとう書房、1987年。

### 欧文参考文献

Real Academia Española: Banco de datos (CREA) [en línea]. Corpus de referencia del español actual. <<http://www.rae.es>> 最終閲覧日 2024年10月30日

Real Academia Española (2008) *Nuevo tesoro lexicográfico de la lengua española* (NTLLE) <https://apps.rae.es/ntlle/SrvltGUISalirNtlle> 最終閲覧日 2024年10月30日

Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española: *Nueva gramática de la lengua española* [en línea], <https://www.rae.es/gramática/morfología/sustantivos-comunes-y-ambiguos-en-cuanto-al-género-consecuencias-sintácticas-de-la-distinción> 最終閲覧日 2024年10月30日紙版 (2009) も参照。

Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española: *Diccionario panhispánico de dudas* (DPD) [en línea], <https://www.rae.es/dpd/>, 2.a edición (versión provisional). 最終閲覧日 2024年10月30日。初版 (2005) も参照。

Real Academia Española (RAE) y la Asociación de Academias de la Lengua Española (ASALE) (2014) *Diccionario de la lengua española*, vigésima tercera edición (第23版), Espasa-Calpe. およびそのオンライン版 <https://dle.rae.es> 最終閲覧日 2024年10月30日。

Wehr, Hans (2013) *A Dictionary of Modern Written Arabic*, Edited by J. Milton Cowan. Snowball Publishing. (オンデマンド)

(どい・ひろふみ 外国語学部准教授)